

地域と一丸になって災害に備える

昨年の一〇月に起工式を行い順調に工事を進めておりました、浜松市の瑞生寺様(曹洞宗)の本堂屋根瓦替え・耐震改修工事が無事に終わり、三月の末に引渡しを行いました。

瑞生寺様の本堂は建ててから約七〇年が経ったことで瓦の劣化が気になり、また今後くるであろうと予想される東海地震に備えておきたいと考えておりました。昨年の一〇月に消費税が八%から一〇%に上がることから、今回の工事を行うことを決意いたしました。



工事は内部の床下や梁に仕口ダンパーという金物の取付と荒床の張替え、壁の補修等を行い十二月から屋根瓦



仕口ダンパーは木造建物の柱と化粧梁の交点(仕口)に取り付ける制震装置で、地震による建物の揺れのエネルギーをしなやかに吸収し、建物の変形を小さくすることにより地震の被害を抑えます。仕口ダンパーを取付けた所を持送り板で隠しました。

近年の夏は猛暑続きのため、本堂内にもエアコンを取付けしました。床下に本体を設置してダクトで送風して吹出し口より涼風が出ます。



の葺き替え工事にはいりました。ここ数年は地震だけでなく自然災害が日本各地で起こっていることから、瑞生寺様では地域の皆様の避難場所としての役割も担っていきたいと考えています。今後は防災倉庫や備品・水や食料も備える予定です。